

国立病院機構熊本医療センター

No.146



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

第59回 日本病院学会が開催されました

7月23日から24日の2日間、「よりよい医療のあり方を求めて」をテーマに第59回日本病院学会が、宮崎久義学会長、高野正博副学会長、池井聰実行委員長のもと熊本市で開催されました。崇城大学市民ホール(熊本市市民会館)、熊本市国際交流会館、くまもと県民交流館パレア、鶴屋ホールを会場に、会長講演、招待講演、特別講演等11題、シンポジウム7、ワークショップ10、一般講演434題、ポスター発表136題の発表が行われました。延べ5千人の参加があり、多岐にわたる重要課題について医師、看護師をはじめ医療に携わっている全ての職種が参加して討議が行われました。医療連携や認知症対策などと共に、富田紘一熊本市文化財専門相談員の「熊本城の歴史と魅力」と題した講演もあり、熊本の特色が出た学会となりました。梅雨の合間の学会となりましたが、何とか天候にも恵まれ無

事終了しました。

学会運営にあたり、日本病院学会熊本県支部病院の先生方には大変お世話になりました。

(統括診療部長 野村一俊)



第59回日本病院学会の様相

(於：崇城大学市民ホール)

第27回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

標記連絡会を下記の要領で開催します。先生方はもとより看護部門、事務部門、MSWなど多数のご参加をお待ち申し上げます。なお、連絡会の前に新病院の見学ツアーを行いますので、ご希望の方は、事前に郵送しますがきにてお申し込み下さい。なお当日受付でも申し受けます。

日時 2009年10月5日(月) 午後7時～午後9時

場所 国立病院機構熊本医療センター 2階 地域医療研修センターホール

- 内容
1. 開放型病院連絡会総会
 - 1) 紹介症例の呈示
 - 2) 新病院における共同指導手続き等のご説明
 2. 意見交換会
- 会費1,000円は、当日受付で申し受けます。

※病院見学 午後5時30分～午後6時30分

【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課(担当：高倉、牧野)

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線390)



地域医療支援へ深謝

医法) 敬愛会 城山病院

理事長 藤岡 俊宏
院長

病棟が単科構成の医療機関は、日々直面する課題として、患者さんの高齢化に伴う身体合併症への取り組みという切実な問題を抱えています。具体的には、骨折やイレウスに加えて、悪性腫瘍、血管障害、腎不全、不明熱、SIADHなど、多彩かつ好発傾向にあります。なかでも、高齢者の心不全は、AMIに代表される心性要因、精神運動興奮・貧血・高熱などの心外性要因を契機に増悪します。そのため、当院では、カラードプラーによる心機能評価、院内心電図オンライン、動態心電図による不整脈精査などを行っています。以下に、医療センターとの病診連携を頼りに、同センターにて精神身体両面診療にご尽力を賜り、一命を取りとめた患者さんをご紹介します。

Aさん（60歳代男性）。

主要診断名：急性循環不全、統合失調症。

デイルームでTVを観ていたAさん、突然椅子から床に崩れるようにして転倒。意識レベルがJCS 300で心肺停止状態に陥っておられたため、直ちに

心臓マッサージ・気管挿管などのCPRを開始。自発呼吸を認めた時点で心電図を記録したところ、広範囲AMIであったため、医療センターに救急搬送。CAGにて三枝に有意狭窄が描出されたため、冠動脈バイパス術施行。術後の経過は、発作性心房細動が出没する以外、経過順調なため当院に転院。その後は、心原性脳塞栓の予防のためワーファリン療法を開始。経過観察始めてから半年が過ぎようとしていた頃、左眼の左方偏移・瞳孔散大が発現したため、再度医療センターに搬送。頭部CT、脳血管撮影による精査の結果、動脈瘤を認めないクモ膜下出血であることが判明。以後は、精査所見を踏まえた保存的療法が施され、神経学的に新たな異常所見が見出されないため当院に再転院。現在は、リハビリが功を奏し歩容状態も安定されています。

Aさんの場合、生死にかかわる二度の血管障害に見舞われながらも、医療センターでは、診療科を超え迅速に対応して頂きました。かかる書面にて心底より厚く御礼申し上げます。当院のように、病棟が精神神経科の単科病院の場合、精神身体両面に渡る連携診療がなされる医療センターは、不可欠な存在です。今後とも、病診連携のほどよろしくお願い申し上げます。

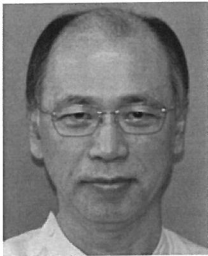


FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

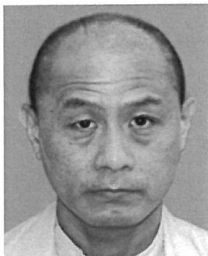
(経営企画室長 末次 剛輝)



統括診療部長
リハビリテーション科部長
地域医療研修センター主幹
野村 一俊

整形外科一般、膝関節外科、
股関節外科、関節リウマチ

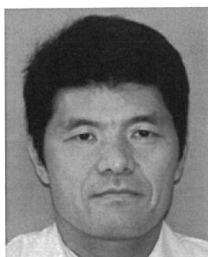
日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会専門医
日本整形外科学会スポーツ医
日本リウマチ学会評議員
西日本整形災害外科学会評議員
日本医療マネジメント学会理事
熊本大学医学部臨床教授



部長
リハビリテーション科医長
橋本 伸朗

整形外科一般、脊椎外科、外傷外科

日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本リウマチ学会専門医
日本リハビリテーション学会臨床認定医
日本脊椎脊髄病学会指導医



医長
福元 哲也

整形外科一般、膝関節外科、
股関節外科、外傷外科

日本整形外科学会専門医



医師
前田 智

整形外科一般、肩関節外科、
股関節外科、外傷外科

日本整形外科学会専門医



医師
中馬 東彦

整形外科一般、関節外科、外傷外科

日本整形外科学会専門医



医師
平井 奉博

整形外科一般、外傷外科

日本救急医学会認定医



医師
松下 任彦

整形外科一般、外傷外科

日本整形外科学会専門医

診療実績

従来、関節鏡視下手術による低侵襲手術に積極的に取り組んできましたが、現在、人工股関節置換術、人工膝関節置換術にも低侵襲手術を導入し、さらに平成18年度より鏡視下脊椎手術にも導入し積極的に取り組んでいます。

平成20年度の整形外科手術件数1,009件の内訳をみると、疾患別では骨折が半数以上を占めていますが、脊椎手術が185例、人工膝関節置換術が45例、人工股関節置換術が50例、大腿骨人工骨頭置換術が100例でした。

平成20年度の整形外科新外来患者数は2,554名、入院患者数は1,132名で、平均在院日数は14.6日でした。

(次ページへつづく)

診療内容と特色

近年、医療機関の機能分化が進み、医療連携なくして医療は行えなくなってきました。急性期医療を担う当院整形外科では、手術的治療が中心となっています。従って術後リハビリテーションを要する多くの症例は、リハビリテーション施設へ転院治療をお願いしています。医療の標準化・質の向上を目指して10年前よりクリティカルパスを導入し、現在入院症例の90%以上に使用しています。また、転院治療例に対しては、転院施設と結ぶ地域連携クリティカルパスを活用しています。

(前ページより)



写真 脊椎鏡視下手術

研究実績

QOL向上のための人工関節置換術、脊椎手術を中心とした低侵襲手術の臨床研究を続けています。これ

らの研究は、単に術式・材料に留まらず、総合的な医療の質向上のためのクリティカルパスと結びついた研究としても発展しつつあります。現在、国立病院機構の政策医療ネットワーク骨・運動器共同研究として、大腿骨近位部骨折の予防、頸椎症性脊髄症の病態解明と手術法の標準化の臨床研究に参加しています。また、厚生労働科学研究では、主な医療行為に対するクリティカルパスの臨床評価指標及び経営管理指標を用いた評価方法の開発と医療機関経営に与える影響に関する研究に参加しています。

今後の目標・展望

急性期病院の整形外科として、手術療法の更なる成績向上と低浸襲化を目指すと共に、地域連携クリティカルパスを充実し、術後リハビリテーション担当施設との連携医療の質向上を図っていきます。

緩和ケア研修会を開催しました

6月13日、14日の両日、当院の教育研修棟で平成21年度国立病院機構熊本医療センター緩和ケア研修会を開催致しました。地域がん診療拠点病院には緩和ケアの普及を推進することが求められており、現在全国で展開されている日本緩和医療学会主導のPEACEproject*のカリキュラムに準拠して行いました。疼痛などの身体症状や精神症状の緩和・コミュニケーション法・地域連携などがん診療における患者の全人的苦痛への対処を網羅した内容となっています。医師18名、他職種11名の多数の参加を頂き、講義のみならず、ワークショップ、ロールプレイなど積極的・能動的な時間を過ごして頂きました。特にコメディカルの方々の参加で議論に深みが増したように思います。

今回は院内参加中心でしたが、今後は当院と連携頂いている先生方を中心に、この場を通して更に顔の見える医療を目指し、切れ目のないがん診療・緩和ケアを実現していければと考えております。がん対策推進基本計画で「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが目標とされており、今後10年間での達成を掲げています。当院でも年1回以上の開催を目標としてい



ディスカッション後の発表

ますので、奮って参加して頂きたいと思います。なお本研修会に参加された医師には全日程終了後、厚生労働省健康局長からの修了証書をお渡ししました。

*PEACE=Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

(内科 榮 達智)

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ 38回

培養表皮移植による創傷治療

形成外科医長 大島 秀男



形成外科の分野ではこれまでに熱傷創、難治性潰瘍などの創傷治療に再生医療のコンセプトに基づく創傷治療が試みられてきました。当院においても同種培養真皮による創傷治療の臨床研究（厚生科学ミレニアムプロジェクト）、効果的な幹細胞移植法に関する研究（国立病院機構多施設共同研究）に参加し、難治性潰瘍を中心とする慢性創傷にたいして培養繊維芽細胞、培養表皮細胞を用いた治療を試みてきました。これらの細胞治療は従来の創傷被覆材による創傷治療とは異なり、移植された細胞からFGF、EGFなどの成長因子やサイトカインが分泌されるため、肉芽形成、表皮化を促進するなど創傷治癒機転に直接作用します。しかし本邦では製剤化された再生医療製品・生物学的創傷被覆材はこれまで市販されておらず、一部の研究機関でしか臨床応用できないという状態でした。

平成20年2月厚生労働省がJ-TEC社に対して培養表皮の製造承認をしたため、にわかに再生医療製品の普及に強い関心がよせられました。特に広範囲熱傷症例の治療では患皮部位が著しく制限されるため、自家培養表皮移植による皮膚再生が必要となります。平成20年7月から広範囲熱傷治療に対する培養表皮移植の臨床試験が全国13施設に委託されました。当院もこの臨床試験に参加し、体表面積約40%の広範囲熱傷症例を

自家培養表皮移植により治療して良好な結果を得ました。この臨床試験の結果を踏まえて、平成21年4月から熱傷スコア30以上の広範囲熱傷の治療に自家培養表皮移植が保険適応されることになりました。ただし広範囲熱傷集中治療管理加算が算定可能でかつ同種皮膚移植が可能な施設であることが施設基準に盛り込まれており、現時点では全国24施設のみがこの基準を満たしているにすぎません。

今回保険承認されたGreen型培養表皮は米国、韓国などを中心にベンチャー企業による供給が活発に行われ数多くの症例報告がされており、本邦においても広範囲熱傷の標準的治療になっていくものと期待されます。



第4回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

（日本医師会生涯教育講座3単位認定）

- 内容：1) 講演 「インターフェロンによる精神症状」 精神科医長 渡邊 健次郎
2) 症例検討会
3) 講演 「インターフェロン治療導入病棟の役割～地域連携クリティカルパスを使用しての課題」 別館3病棟看護師 佐藤 亜希子

日時：平成21年8月24日（月） 19：30～21：00
場所：国立病院機構熊本医療センター 教育研修棟4F会議室

近年、肝疾患患者人口の増加に伴い地域医療連携の重要性が増してきています。当院では平成20年4月よりインターフェロン療法地域連携クリティカルパスを運用し、多くの医療施設との連携が深まりつつあります。この一環として9月に「二の丸肝臓談話会」を発足しました。実地診療に根ざした勉強会を目指しています。年4回の例会と、1回の特別講演会を予定しています。今回、第4回二の丸肝臓談話会を開催しますのでご案内をさせていただきます。

多数のご参加を歓迎します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器科医長 杉 和洋 TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

研修医レポート

臨床研修医

1年次 ^{いわはし}岩橋 ^{おん}温



いつもお世話になっております。2009年4月より国立病院機構熊本医療センターにて研修させていただいている岩橋温と申します。国立病院機構熊本医療センターの研修医として2年間お世話になります。出身は福岡県福岡市で、沖縄の琉球大学を卒業しまして、今回初めて熊本に住むことになりました。熊本は水がおいしいです。

4月に救命救急からローテートを開始し、4か月目の現在は外科で研修をさせてもらっております。

研修が始まる前は、自分の中で確固たる理想の医師像がありました。が、いざ研修が始まってみると、現実の自分の不甲斐なさに愕然とすることが多く、日々理想と現実とのギャップにもがいています。正直なところ医師としてちゃんとやっていけるのか不安もありますが、指導医の先生方をはじめとする各科の先生方、スタッフの方々に助けられてなんとかやっております。国立病院機構熊本医療センターは救急車の搬送台数がとても多く、様々な症状の患者さんが来られるので、幅広くいろいろな分野の疾患を経験することができます。この恵まれた環境を大いに活かしてより多くのことを学びとっていきたくと思っています。

今後とも厳しくも温かいご指導をどうぞ宜しくお願いいたします。

臨床研修医

1年次 ^{うえの}上野 ^{さとし}聡史



いつも大変お世話になっております。4月より国立病院機構熊本医療センターにて研修させていただいています研修医1年目の上野聡史と申します。医師としての生活が始まりもうすぐ4か月が経とうとしていますが、ようやく病院のシステムや仕事に慣れてきた感じですが、最初の2か月は代謝内科からはじまりましたが、不慣れなことが多く悪戦苦闘の日々でした。電子カルテの使い方、他科コンサルトや紹介状の書き方、カンファレンスでのプレゼンテーションの仕方などわからないことだらけでしたが、先生方の温かい指導のおかげで少しずつ慣れていくことができました。代謝内科では糖尿病をはじめ、低血糖、低Na血症、下垂

体機能不全症など多くの症例を経験させていただき、大変充実した2か月間でした。6月からは循環器内科での研修を行っていますが、急性冠症候群をはじめ、急性心不全、心房細動、肺塞栓症など急性期疾患を数多く経験させていただいています。また、スワンガンツカテーテルを研修医がさせていただけるのも魅力の一つです。循環器内科での研修も残り2週間となりましたが、最後まで貪欲に学んでいこうと考えています。

当院は急性期病院であり、救急搬送数も県内トップクラスということもあって救急外来では数多くの症例を経験できます。外傷、中毒、内科救急疾患、精神救急疾患など症例には事欠きません。研修医はルート確保、血液ガス、縫合、気管挿管、CVカテーテルなどたくさんの手技を経験することができるため、2年間でかなりの力が付くのではないかと思います。まだまだ先生方の足を引っ張ることも多く、医師としては未熟者ではありますが、日々成長していけるよう頑張りたいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

■ 研修のご案内 ■

第127回 月曜会（無料） （内科症例検討会） [日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成21年8月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 教育研修棟4階

日常診療の悩みを解決します。ぜひ、ご参加ください。

1. 柏原医長による胸部レントゲン読影講座

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「糖尿病ケトアシドーシスを契機に診断されたI型糖尿病」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 伊良波 諭

4. ミニレクチャー「骨髄腫の最新治療について」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 中村 美紀

悩んでいる症例、これは情報共有したいと思われる症例をお持ち下さい。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第96回 三木会（無料） （糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会） [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成21年8月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 教育研修棟4階

1. 「緩徐進行1型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター内科医長 豊永 哲至

2. 「HbA1cが2ヶ月で6.3%から13.3%へ増加したインスリン治療中の2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 花谷 聡子

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お待ちしております。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL:096-353-6501(代表)内線705

第99回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成21年8月26日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 教育研修棟4階

症例検討 「外傷」

国立病院機構熊本医療センター整形外科部長 橋本 伸朗

国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男

国立病院機構熊本医療センター耳鼻科医長 緒方 憲久

国立病院機構熊本医療センター眼科医長 青木 浩則

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL:096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

医学生のための病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課 鶴見 (TEL:096-353-6501) 迄ご連絡下さい。

※見学の際は、白衣と大学名、氏名の記載してある名札をご持参下さい。

詳細については：<http://www.hosp.go.jp/~knh/> まで



2009年

研修日程表

8月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

8月	教育研修棟 4階 (ホール)	教育研修棟 1階	その他
1日 (土)	13:30~17:00 第76回 ナースのための救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他 ※今回は看護学校で開催いたします		
3日 (月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
4日 (火)			8:00 救急部カンファレンス C 15~19 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18:00 血液病懇話会 医局
5日 (水)	18:00~19:30 第58回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルバス研究会 (公開)		
6日 (木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 内分泌代謝内科カンファレンス M
7日 (金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
10日 (月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
11日 (火)			8:00 救急部カンファレンス C 15:00 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18:00 血液病懇話会 医局 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
13日 (木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 内分泌代謝内科カンファレンス M
14日 (金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
17日 (月)	19:00~20:30 第127回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
18日 (火)			8:00 救急部カンファレンス C 15~19 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18:00 血液病懇話会 医局
20日 (木)	19:00~20:45 第96回 三木会 (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 内分泌代謝内科カンファレンス M
21日 (金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
24日 (月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
25日 (火)			8:00 救急部カンファレンス C 15~19 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18:00 血液病懇話会 医局
26日 (水)	18:30~20:00 第99回 救急症例検討会 「外傷」		
27日 (木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 内分泌代謝内科カンファレンス M
28日 (金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
31日 (月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来

C 病院本館2階カンファレンスルーム 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 心リハ 心大血管リハビリテーションセンター
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501 (代) 内線263 096-353-3515 (直通)